

ダイビング・スノーケリング前後の体調チェック (SIPE関連) 【暫定版】

参加者 (番号、氏名等) _____

年齢 () 性別 男 ・ 女

ダイビング等の安全性高めるために研究を進めています。血中の酸素飽和度のデータを研究に利用させていただきたく、ご協力をお願いします (数値のみ利用し、研究結果から個人を特定することはできません)。
同意

沖縄県警察、琉球大学病院及び名城大学は連携し、医学及びスポーツ健康科学の知見から、SIPEの研究及び水難事故防止対策を推進しております。現在、研究の途中段階で暫定的な知見に基づくものではありませんが、以下については、事故防止の観点から有効であると考えられますので、ダイビング前に行う健康チェックに加えて、本項目も参考にしてください。

SIPEとは

SIPEとは水泳誘発性肺水腫 (Swimming Induced Pulmonary Edema) の頭文字の略称をいいます。

SIPEは、医学的な疾患概念は確立されていないものの、外因的な溺水を原因とせず、内因性による浸水性肺水腫の疑いのある症例をいいます。

例えば、ダイビング中に体調不良を訴え、浮上後に船上で意識が喪失し心肺停止となるケースが発生しています。

注 意

ウェットスーツを着て、水に入って、ダイビングやスノーケリングをして、体調の変化があれば、直ぐにガイドに知らせてください。

(例) 息苦しさ、息切れ 頭がぼーっとする だるい

血中の酸素飽和度

アクティビティ実施前
-1本目-

A ()



アクティビティ実施後
-1本目-

B ()

-2本目-

()



アクティビティ実施前
-2本目-

C ()

-3本目-

()

A : 95以下 : 高リスク

B : 95以下 : 高リスク

CがB以上に回復せず
: 高リスク

リスクの目安が高い場合には、安全のためにアクティビティ中止をご検討ください。

備 考

ダイビングやスノーケリングの際に、意識朦朧、息苦しさ等があり血中の酸素飽和度が95以下になった場合には、SIPEの症状等が疑われますので、救急通報するとともに、次の処置も効果が期待されます。

ウェットスーツを着用していたら脱ぐ (圧迫を防ぐ)

酸素吸入器による酸素供給

楽な姿勢で安静にする

医学官の知見を結集し、沖縄県の美しい海を、より安全・安心に楽しめる場所にしていきたいと考えています。